

キリストの嘆き

(マタイ 23・37～39)

一、マタイの福音書23章は

マタイの福音書23章は、主イエスが群衆と弟子たちに語られた、パリサイ人についてのことばです。23章1節から始まり、そのとき、イエスは群衆と弟子たちに語られた。と。状況設定としては、5章1節から始まる山上の説教と重なるものがあります。ただし山上の説教は、山に登って群衆と弟子たちに語られたことばに対して、こちらは平地で、しかもエルサレムの雑踏の中で語られています。23章2節から、主イエスのことばは始まります。そして12節までは主イエスの教えが続いています。教えられることが、ぎっしり詰まっています。ですが、13節をご覧ください。へわざわいだ、偽善の律法学者。パリサイ人。おまえたちは人々の前で天の御国を閉ざしている。おまえたち自身も入らず、入ろうとしている人々も入らせない。とあります。13節以降「わざわいだ」「わざわいだ」が7回語られます。そして、きょう与えられたテキストであります、37節に突入します。ここから何を、神のことばとして、すなわちキリストの福音を聞くことができるのでしょうか。しかも、こじつけではなく、ご安心ください。すばらしい

メッセージが秘められています。

二、「わざわいだ」とは

37節からのメッセージを聞く前に、気になることばである「わざわいだ」に耳を傾けてまいりたいと思います。「わざわいだ」が最初に語られた13節を、今一度見てまいります。へわざわいだ、偽善の律法学者、パリサイ人。です。「わざわいだ」と訳されたことばですが、新共同訳は「不幸だ」と訳出しています。へ律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ。が、新共同訳です。ついでに、口語訳も見てまいります。へ偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわいである。です。「わざわいだ」とは、どういう意味のことばなのでしょう。原文には「ウアイ」という悲痛を表すことばが書かれています。主イエスはパリサイ派のユダヤ人のことで、口から吐き出すように「ウエーッ」とおっしゃったわけでは、主イエスは、パリサイ人の何を問題になさったのでしょうか。パリサイ人の偽善に対して、拒絶反応を示されたのでしょうか。もしそつであるなら、パリサイ人たちがさらに自分を磨いて、偽善から脱出するようにしたら良いわ

けです。例えば、親鸞^{しんらん}聖人^{しょうじん}のようなきよい人になることを目指したら良いわけですが、キリストは、ご自身に来る者に対して清さを求める、厳格な教師ではありませんでした。

三、キリストが示されたこと

37節以降のメッセージに、神の御思いが見えてまいります。へエルサレム、エルサレム。預言者たちを殺し、自分に遣わされた人たちを石で打つ者よ。わたしは何度、めんどりがひなを翼の下に集めるように、おまえの子らを集めようとしたことか。それなのに、おまえたちはそれを望まなかった。です。

キリストが責めておられるのは、エルサレムが、すなわちイスラエルが神に逆らい、預言者を殺し、主に油注がれた者に手を下したことはありません。もちろん、それも責められることです。が、神が責めておられるのは、めんどりがひなを翼の下に集めるように、イスラエルを愛われないのに、神の愛を拒否して、自分の正しさを打ち立てようとしたことでした。こうして、自分の正しさを打ち立てようとしたユダヤ人たちは、生ける神のことばであるイエス・キリストを十字架に追いやってしまいました。

人は自分の正しさによって人生を生き抜こうとしますと、神の御思いから逸れて行き、ついには神が人となられ

たキリストを十字架につけてしまったという事実を知る必要があります。では、パリサイ人は何をしたら良いのでしょうか。方向転換をして主のあわれみを乞い、神の恵みに生かされることです。もちろん、簡単にできるものではありません。そこで神が許されたのは、一時的に見捨てられることでした。38節です。へ見よ。おまえたちの家は、荒れ果てたまま見捨てられる。と、主イエス・キリストはおっしゃいました。こうして、ローマ書9章、10章、11章に書かれているように、イスラエルが神に立ち返るときがやってまいります。

39節をご覧ください。へわたしはおまえたちに言う。今から後、『祝福あれ、主の御名によって来られる方に』とおまえたちが言う時が来るまで、決しておまえたちがわたしを見ることはない。と。主イエスは、イスラエルが立ち返るときが来ることを暗示されました。

きょうはマタイの福音書23章37節から39節より、主の語りかけに耳を傾けました。ふつうに読んでいますと、読み飛ばしてしまうような箇所でした。ですが、じっくり取り組んで主の語りかけを聞くこととしますと、主が発せられた嘆きのことばの中にも、神の恵みが詰まっていることを知ります。